

出前授業「岐阜県データ活用講座」 (現場ニーズを踏まえたテキスト提供) ～生徒の身近な生活と公的統計を 結びつけた教材の開発～

岐阜県総合企画部統計課

企画分析係 課長補佐 清水浩二

課長補佐 中西善裕

連絡先

〒 500-8570 岐阜県岐阜市藪田南2-1-1

Tel: 058-272-1111(内線2083)

Fax: 058-271-5720

E-mail: c11111@pref.gifu.lg.jp

岐阜県統計課のHPでも取組を紹介しています



H23年度、新たな試みとして「データ活用講座」をスタート H28年2月までに延べ69校、約5300人を対象に実施

＜これまでの実績＞

- ・平成23年度 9校(小学校1 中学校5 高校1 大学2)延べ約900名対象
- ・平成24年度12校(小学校2 中学校9 大学1)延べ約1,000名対象
- ・平成25年度17校(小学校4 中学校11 大学2)延べ約1,500名対象
- ・平成26年度21校(小学校13 中学校5 大学3)延べ約1,500名対象
- ・平成27年度10校
 - 岐阜市立陽南中29名
 - 岐阜大学地域科学部(7月約40名・12月約50名)
 - 岐阜県立東濃高等学校5名
 - 八百津町立八百津小学校13名
 - 関市立下有知小学校76名
 - 神戸町立南平野小学校27名
 - 恵那市立恵那西中学校124名(2回に分けて実施)
 - 山県市立桜尾小学校 7名

統計調査を支える現場が望むこと「統計のPR」

調査環境の悪化という課題

- ◆統計調査への協力が得られにくくなっている（繰り返し訪問など）
- ◆統計調査への誤解（「何の役に立つの？」との反応、調査を知らない など）
- ◆回答不備の増加 ・国勢調査の年齢不詳 H17:約1600人 → H22:約9000人弱

統計調査は、現場の統計調査員、市町村職員の、大変な努力によって支えられている

統計調査員・市町村等からの声

- ◆もっと統計をPRすべき（統計を知ってもらうことで協力が得やすくなる）
- ◆統計調査からわかることを、もっとわかりやすく説明すべき
 - ・ワンペーパー、わかりやすいグラフ、ワンフレーズで
 - ・子どもで理解しやすい、わかりやすい資料を工夫してほしい
- ◆税と同じように、子どもの頃から統計について教えることが必要
 - ・学校現場で統計の重要性を教育すべき ・子どもは将来、統計調査の協力者となる
 - ・統計に親しむことで協力を得やすくなる ・子どもが知ったことは親世代に伝わりやすい

県統計課として、もっと普及啓発に取り組む必要がある

取組の方向性

※統計課ホームページのアクセス件数は庁内トップクラス

◆「統計からわかること」をもっとわかりやすくPRする

- ・統計調査の結果を、わかりやすく還元することで、統計への理解を深める
 - 統計を知る、統計の利用を広げることが、調査への協力を促す
- ・公的統計からわかることを、視覚的なグラフを中心にまとめた資料の作成
 - 「データから知る岐阜県・市町村の現状」をホームページで公開
- ・統計調査員研修会等で説明
 - 調査員が統計について説明しやすくなる

◆子ども達が統計に親しむ機会を提供する

- ・統計に関する出前授業の実施
 - 子どもは将来の利用者であり協力者。子どもが知ったことは親にも伝わりやすい
 - 出前授業を繰り返し、子ども達の反応を探ることで、よりわかりやすい説明資料を作り上げることが出来る
- ・学校現場へ公的統計を用いた教材を提供する
(授業で使える教材の提供、副読本作成のためのデータ提供・協力)
 - 公的統計を教材という形を通じてPRする機会となる
 - 現場教員の公的統計への利用を深め、利用拡大につながる

県(統計課)が統計に関する出前授業を行うメリット → 事業を立ち上げるため政策目的を整理

税や新聞などの
教育と同じ

◆次代を担う若い世代に、もっと統計に慣れ親しみ、データの分析・活用の実践やデータからみたふるさと岐阜県の特徴やじまんなどについて、学ぶ機会を提供する。

→ 統計の普及啓発に関する重点的な取組

メリット①:統計への理解を深めることを通じて、調査環境の改善に役立つ

- ・統計は利用されることに価値があり、データ提供を担う統計課は、電子化など利用環境の整備に加え、統計に対する理解や関心を深めてもらうべく取り組むことも重要であり、調査環境の改善には欠かせないもの。
- ・ビジネス等で統計を利用する方々はもちろんのこと、児童・生徒の皆さんは学習等を通じた統計の利用者であり、将来の社会人、統計調査の協力者として、統計への関心を深めてもらう重要な対象
- ・学校現場の教員から、統計を学ぶ授業の実践事例の紹介が少ない、データを読み取る力の養成が重要との声

「公的統計の整備に関する基本的な計画」(第Ⅱ期基本計画)「3 統計調査環境の改善」
「国民の統計調査に対する協力意識を高めるためには、初等教育から高等教育に至るまでの各段階において、統計リテラシーを重視した統計教育や統計教育等を通じた統計倫理の醸成が重要である」

メリット②:ふるさとへの誇りと愛情をもつ人材を育てる機会として役立つ

- ・「ふるさとへの誇りと愛情を育てる」(ふるさと教育)は、岐阜県長期構想～人口減少時代への挑戦～に位置づけられており、県の重要な政策
- ・データの裏付けを持ってふるさとの特徴を語ることは、データ提供を担う統計課の重要な役割
- ・データからふるさとの良さ・じまんを見つめ直す、ふるさとへの愛着を深めてもらう機会として役立つ

◆平成24年度、日本統計学会より統計教育賞を受賞

学校現場への働きかけは、統計課からだけでなく、 教育委員会等とも連携して実施

統計課による働きかけ

- ・統計課ホームページに「データ活用講座」の案内と、実績を掲載
(<http://www.pref.gifu.lg.jp/kensei-unei/tokeijoho/detakatuyou/>)
- ・かつて出前授業を実施した学校や大学など、統計課のつながりを活かしPRを実施
- ・講座実施の都度、事前に記者発表しPR → 新聞掲載・テレビ報道実績あり

教育委員会等との連携

- ・県教育委員会の教育に関する基本方針である「岐阜県教育ビジョン」に、「データ活用講座」を位置づけ
- ・出前授業の案内チラシを、県教育委員会から各圏域の県教育事務所、各市町村教育委員会を通じて、全公立小中学校へ配布(私立学校へは県担当課を通じて配布)
- ・算数・数学科、社会科、総合学習の時間など担当の指導主事会等において、「データ活用講座の案内」や「総務省HPなるほど統計学園」のパンフ等により説明・周知

教員の方々への働きかけ

- ・数学科研究会、小学校算数部会、中学校社会部会などの自主研究組織に参加するなど、「データ活用講座」や「総務省HPなるほど統計学園」等の情報を紹介し、働きかけ

第二次岐阜県教育ビジョンより抜粋

基本目標 1

確かな学力の育成と多様なニーズに対応した教育の推進

(1) 確かな学力の育成

③科学的思考力を育成する教育の推進

- ・理数教育設備を充実させるとともに、授業において観察や実験を積極的に実施し、結果の分析などを通して、根拠をもって思考する力や、説明する力、課題を見つけ解決する力の育成を図ります。
- ・グラフ作成や資料の分析など統計分野に関する実践的な出前授業「データ活用講座」を実施します。出前授業では、データから本県や地域の特徴を知る学習も取り入れ、ふるさとへの愛着を深める機会としても活用しつつ、その成果等を取りまとめた分かりやすい教材を提供します。

授業を行うに当たり心がけたこと ～一方的な解説とせず、積極的に参加出来るよう工夫～

難しく考えがちな統計を、児童・生徒らが慣れ親み、楽しく学ぶことが一番！

1 親しみやすいように、授業導入のクイズを入れる

・海なし県クイズ(県の位置をイメージ)、ご当地クイズ、県民が好きな食べ物クイズ 等々

2 地域の人口や主要な産業など身近なデータを題材に入れる

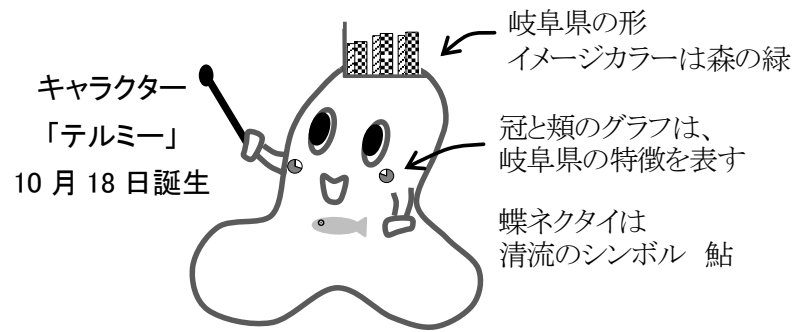
3 聞くだけでなく、活動する機会を設定する(参加を促す仕組み)

・グラフ作成など手を動かす活動体験を組み込む ・班別に話し合う様な時間を設け、発表

・ふるさとのキャッチコピーを作り、発表する

4 グラフ、図表を使い、視覚的に見せることにこだわる

統計に親しみ楽しく学ぶことを工夫した一例として、統計局HP「なるほど統計学園」の「あなたの地元が日本一！」を使って、生徒が各県自慢を発表した授業例もあり(H25.3)



データ活用講座の基本型

基本型1 「データからふるさとを知る」

・データ活用の実例として、森林率全国2位、水力エネルギー量全国1位、岐阜のモノづくり産業や農林畜産物など、ふるさと岐阜県や地域の特徴・強みを、グラフ等を用いて分かりやすく解説。授業のまとめとして、データから学んだふるさとのじまん等をアピールするキャッチコピーを生徒らが作成し発表を行う。



毎年の依頼校、案内チラシやホームページから知った等々、依頼が大変多い。「漠然と知っている岐阜県や地域の特徴をデータで裏付けて学ぶ機会としたい」との声が多く、ニーズが強い。

基本型2 「データをグラフに表し傾向を読み取る」

・人口の推移、人口ピラミッド、真夏日等の気候、主要産業・特産品等の地域の特徴など、身近なデータを題材に体験型の学習を実施。統計課が用意したデータ・作業しやすいグラフ作成シートを生徒に配布し、職員がアドバイスしながら、実際にグラフ作成を行い、完成したグラフを分析し読み取った傾向や特徴をまとめ、発表を行う。



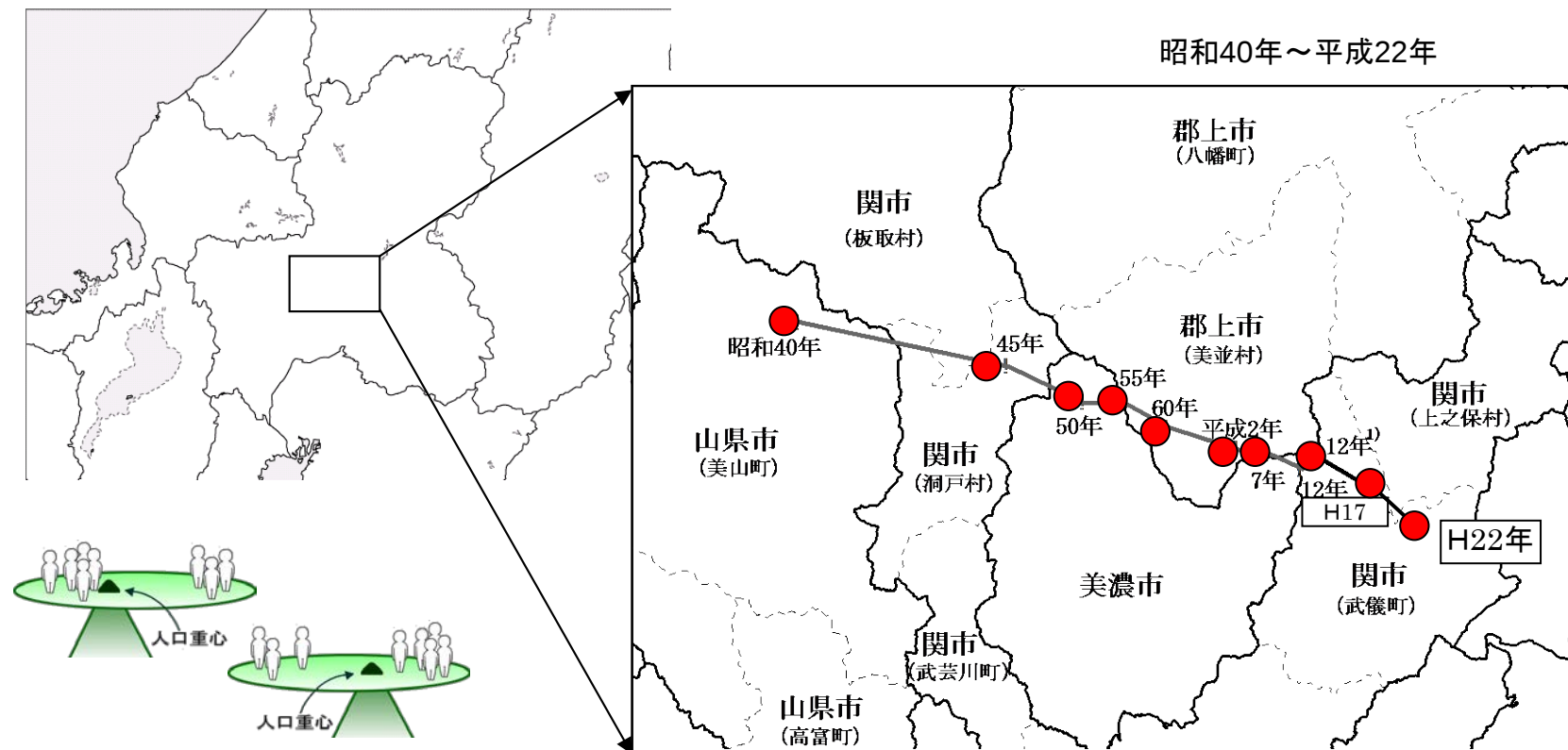
教材を開発

◆「岐阜県」の人口は多い方か少ない方か

◆統計から生活リズムを見つめ直す(新たに作成)

日本の真ん中ぎふ～日本のへそ「人口重心」がある～

人間の身体でいえば「へそ」に当たる「日本の人口重心」は、一貫して岐阜県にあります。平成22年国勢調査による「日本の人口重心」は、岐阜県関市富之保(旧武儀町)にあり、まさに岐阜は、日本の真ん中と言えるところです。

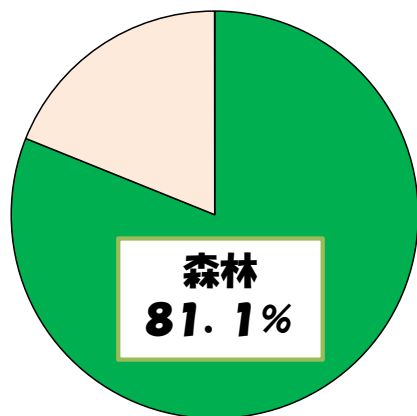


日本の人口重心とは、人口の1人1人が同じ体重と仮定して、日本の人口が、全体として平衡を保つことのできる点をいいます。

なお、人口は国勢調査人口によるため、5年毎の表示となる。

県土の約8割が豊かな森林 森林率は、全国2位！ 豊かな森が清らかな水を蓄える 水力エネルギー量は全国1位

県土に占める森林の割合（森林率）



【森林率】

1位	高知県	84.0%
2位	岐阜県	81.1%
3位	長野県	78.9%
4位	島根県	78.4%
5位	山梨県	77.9%

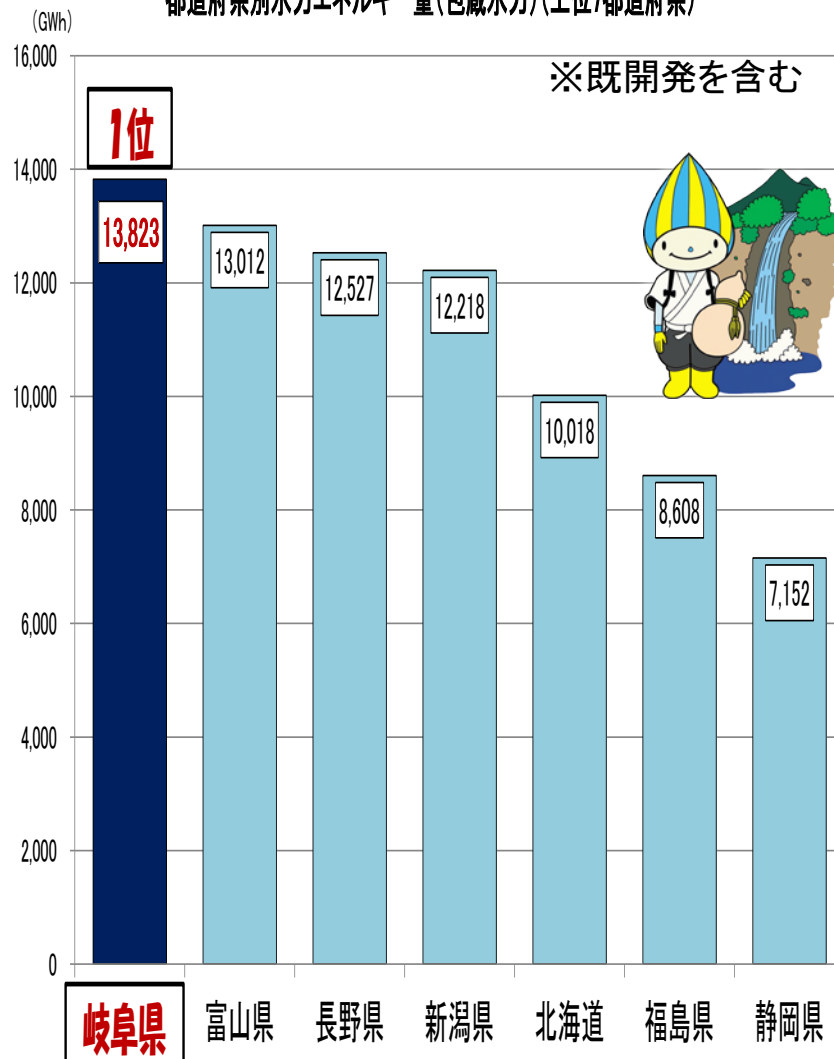
（資料：林野庁H24森林資源の現況）

北アルプス、穂高連峰に代表される中部山岳自然公園、白山は日本三名山のひとつ。
峡谷美が美しい飛騨木曽川自然公園 など

長良川は全国で唯一河川水浴場に選定
環境庁「日本の水浴場55選(H10)」
「日本の水浴場88選(H13)」

長良川、木曽川、揖斐川の三大河川
長良川は日本三大清流のひとつ
養老の名水、高賀の森水 など

都道府県別水力エネルギー量(包蔵水力)(上位7都道府県)

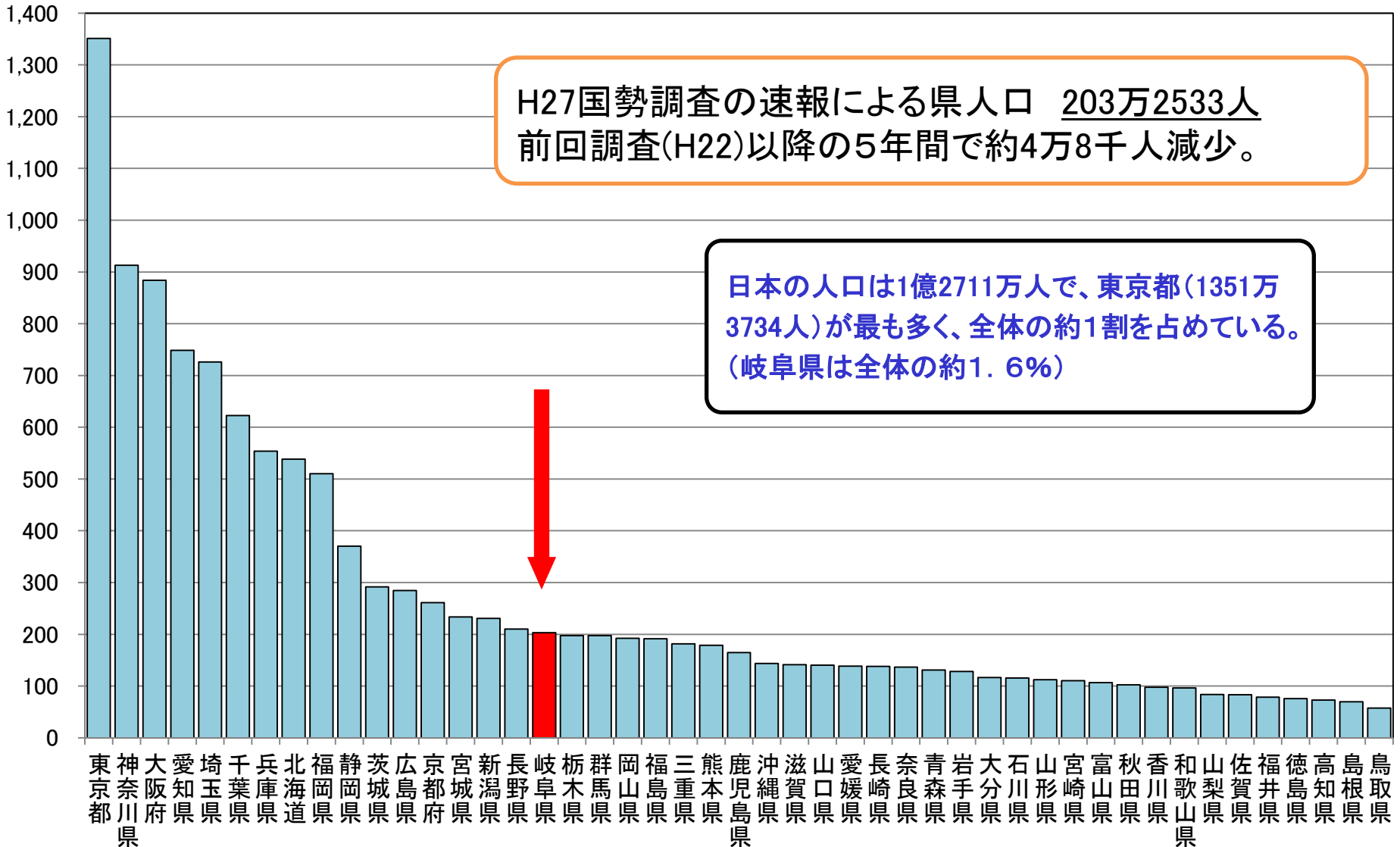


（資料：経済産業省資源エネルギー庁「日本のエネルギー量」）

岐阜県の人口は全国第17位と多い方。

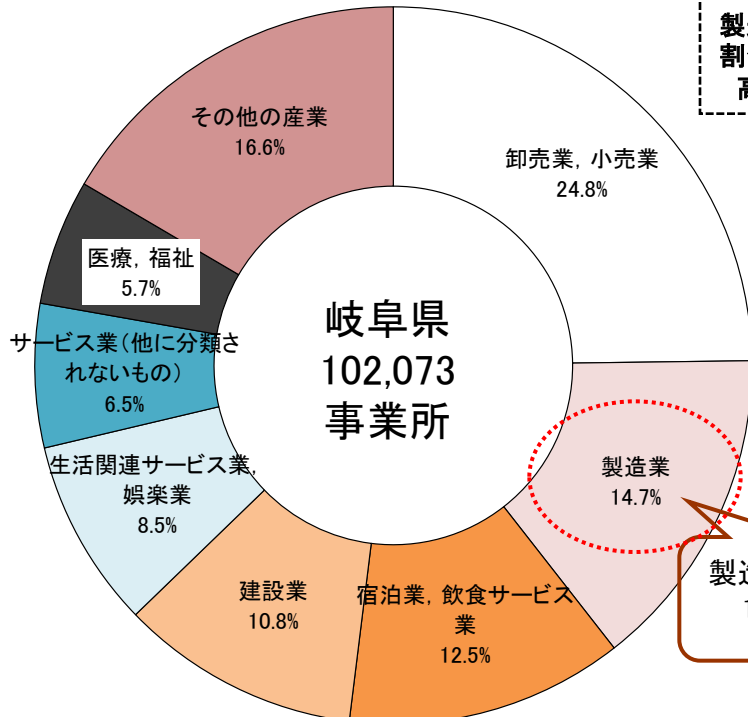
都道府県別に見た人口(H27国勢調査)

(万人)



産業別の事業所数、従業者数でも、製造業の割合が高い

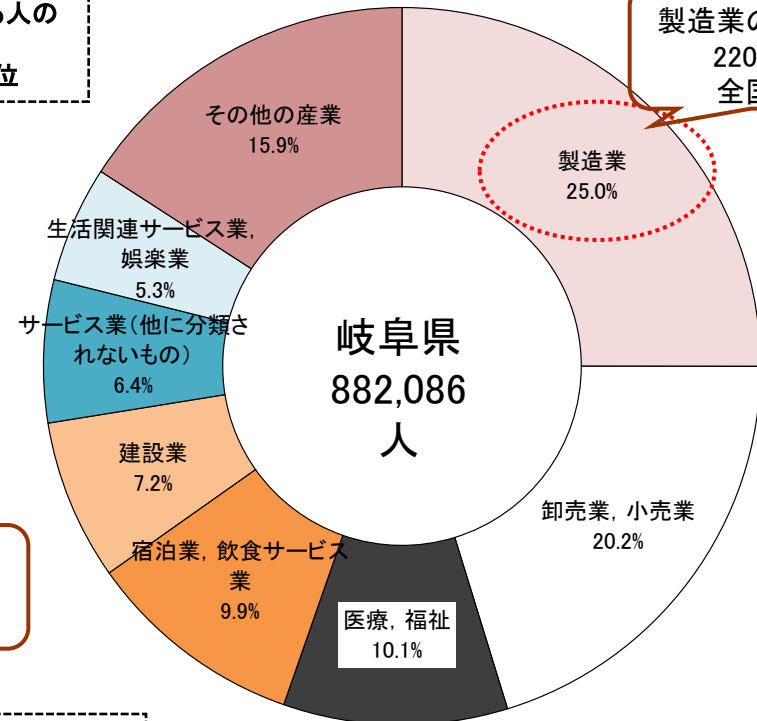
岐阜県の産業別事業所数



製造業で働いている人の割合は25.0%
高い方から全国6位

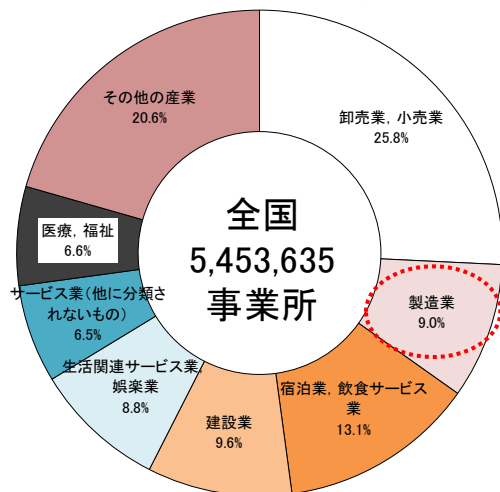
製造業の事業所数
14,955事業所
全国9位

岐阜県の産業別従業者数



製造業の従業者数
220,619人
全国13位

全国の産業別事業所数

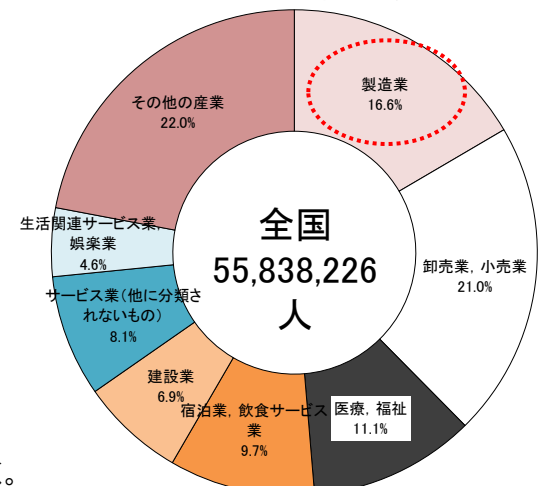


・事業所数に占める製造業
事業所の割合は14.7%
全国1位

「その他の産業」

＝農林漁業＋鉱業
＋電気・ガス・熱供給・水道業
＋情報通信業＋運輸業、郵便業
＋金融・保険業＋不動産業、物品賃貸業
＋学術研究、専門・技術サービス業
＋教育、学習支援業＋複合サービス業

全国の産業別従業者数



出典：総務省「平成24年経済センサス-活動調査」
注) 事業内容等が不詳の事業所を除く。公務を除く。

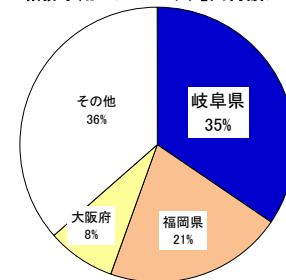
生活必需品から航空機部品まで幅広く集積している

< 製造業品目別出荷額等でみた全国シェアの高い主なもの >

電気機械・一般機械など

○油圧シリンダ1位、給排水用バルブ・コック1位、換気扇1位

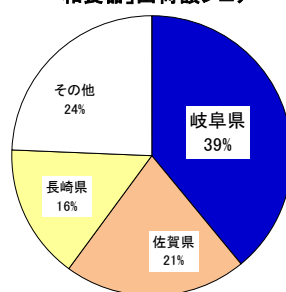
「給排水用バルブ・コック」出荷額シェア



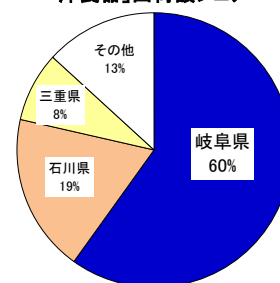
窯業・土石製品

○和食器、洋食器、
タイル、消石灰は1位

「和食器」出荷額シェア



「洋食器」出荷額シェア

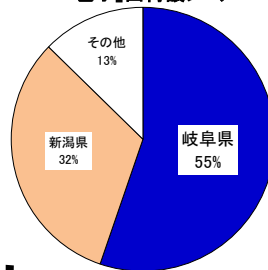


志野や織部で有名な「美濃焼」

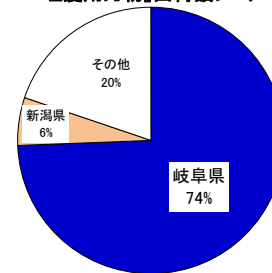
金属製品

○包丁、ナイフ、
はさみ、理髪用刃物1位

「包丁」出荷額シェア



「理髪用刃物」出荷額シェア



刀鍛冶の伝統を受け継ぐ関市の刃物



木材・家具等

○木製机・テーブル・いす全国1位

「飛騨の匠」を受け継いだ木工産業



その他

○ふ・焼きふ、栄養補助食品全国2位

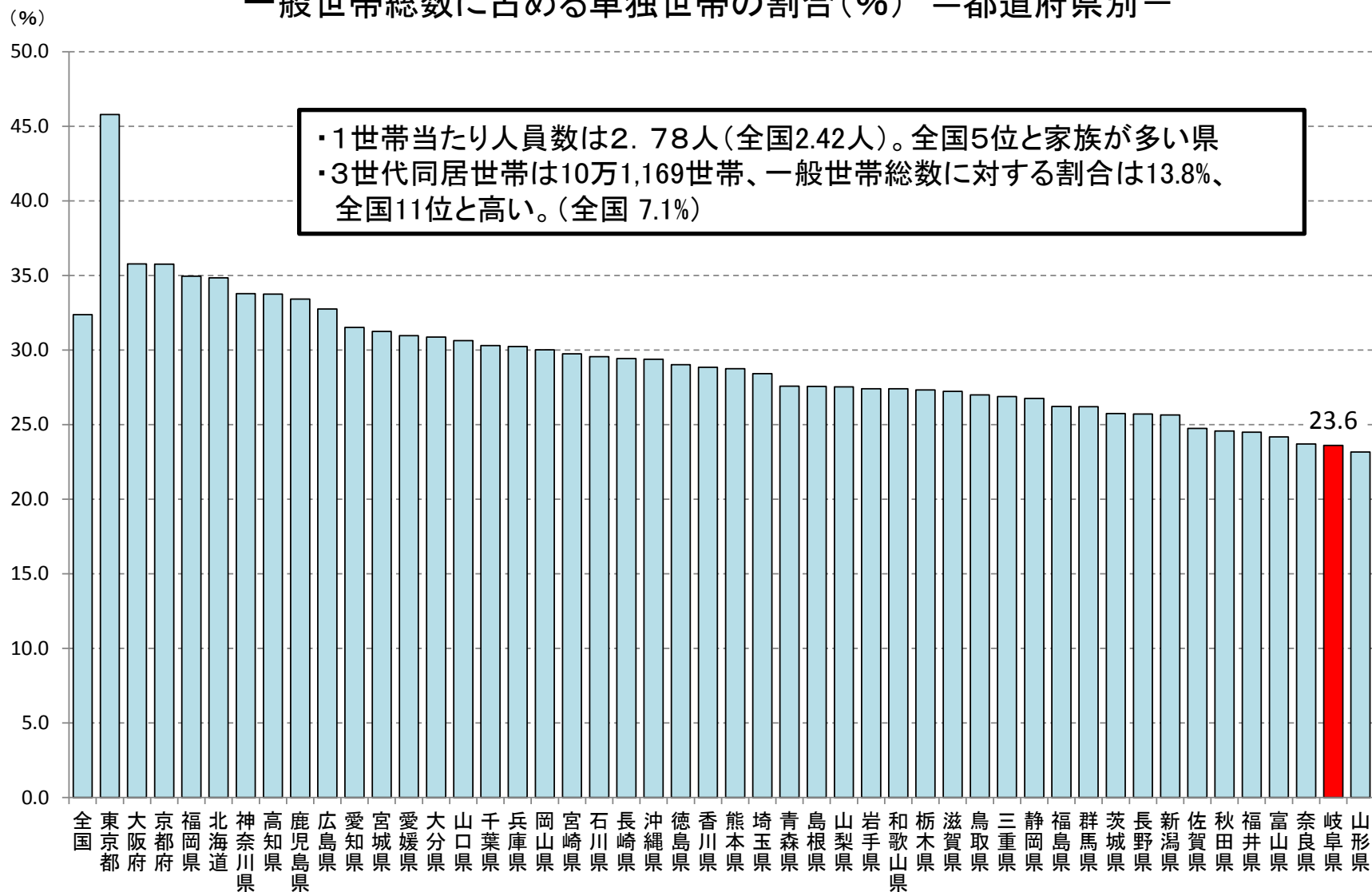
航空機関連産業の従業者数は愛知に次いで2位(3位は東京)



岐阜県は1人暮らしが少ない方(低い方から全国2位)

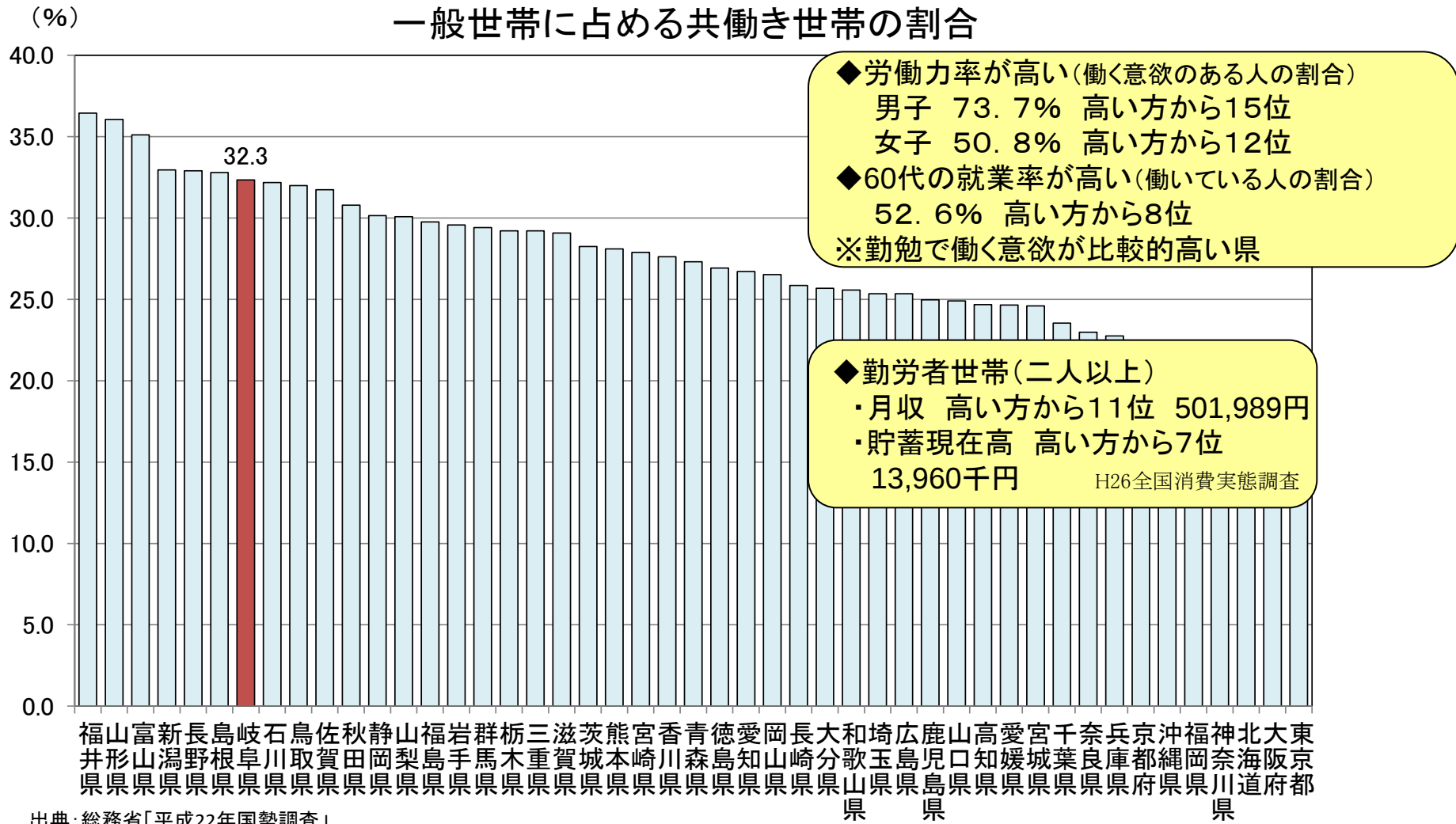
一般世帯総数に占める単独世帯の割合(%) ー都道府県別ー

- ・1世帯当たり人員数は2.78人(全国2.42人)。全国5位と家族が多い県
- ・3世代同居世帯は10万1,169世帯、一般世帯総数に対する割合は13.8%、全国11位と高い。(全国 7.1%)



夫婦の共働きの多い方

▶岐阜県の平成22年の夫婦共働き世帯は23万7903世帯で、一般世帯総数（73万5702世帯）に対する割合は32.3%、全国7位と高い。（全国24.5%）



(注) 共働き世帯(夫婦とも就業者の世帯)／一般世帯総数(核家族世帯、単独世帯、3世代世帯などを含む、施設等の世帯を除いた一般世帯の合計)

岐阜県民はこんなことが大好き

資料:総務省「家計調査」都道府県庁所在市別ランキング(H24~H26平均)
(二人以上の世帯の1世帯あたり年間支出金額・購入数量)



★外食が大好き

・和食(外食)消費金額	39,423円	多い方から全国2位!(前回1位!)
・洋食(外食)消費金額	24,755円	多い方から全国5位!(前回4位!)
・中華食(外食)消費金額	8,058円	多い方から全国2位!
・すし(外食)消費金額	19,096円	多い方から全国2位!(前回1位!)

その他こんなものの金額も多いです。

- ・ようかん、まんじゅう以外の他の和生菓子 全国2位
- ・もち 全国2位
- ・かつお節、削り節 全国6位
- ・マッサージ料金等 全国6位

★全国一喫茶店が大好き



- ・1年間の喫茶代 11,697円 多い方から全国2位!(H21~H23平均では1位)(H26全国消費実態調査からみても、1ヶ月の喫茶代945円⇒全国2位!)
- ・人口千人当たりの喫茶店の数 1.47店 多い方から全国2位!:H24経済センサス

- ・人口千人当たりの飲食店の数(居酒屋等を除く) 4.05店 多い方から全国1位!

H24経済センサス

居酒屋等
は1.26店で
41位

※「珈琲」という当て字は岐阜県大垣市で使われたのが最初

★ハムと柿も大好き



ハム
購入量 : 全国5位(前回2位)
購入金額 : 全国7位(前回5位)



柿(かき)
購入量 : 全国1位
購入金額 :

★行動的な県民性

- ・ボランティア活動の年間行動者率 32.8% 高い方から7位
- ・旅行・行楽の年間行動者率 74.6% 高い方から11位
- ・趣味・娯楽の年間行動者率 83.8% 高い方から21位

資料:H23社会生活基本調査

「データからふるさとを知る」授業のニーズは強い

○「岐阜県や地域のことは漠然と知っているが、改めて地域の特徴をデータで裏付けて学ぶ機会としたい」との依頼が多い

○「改めて地元への理解が深まった」との感想が児童生徒、教員とも多い

→ 今年度実施した神戸町立南平野小学校では親さんも参観

- ・「地域の特徴や良さを子供に分かりやすく説明され良かった」
- ・「楽しくて自分も勉強になった」「県の取組として良いこと」

であり、好評であった。

○これらの内容はグラフ読み取りが主体 → 統計教育には物足りない？

◆学問として統計に入る前に、まずは難しく思いがちな統計に親しむ機会として有効

◆データ活用の基本 「データが示す傾向を読み取り、分かりやすいグラフで示す」

- ・ビジネスではグラフを用いたプレゼンが多くなされる等
- ・データから読み取れる内容を分かりやすく示すのはデータ活用の基本
- ・資料を読み取りまとめるといった学習も多く取り入れられている
- ・統計活用の実践を示す統計教育として重要と考える

公的統計を用いた教材の開発①

◆岐阜県の人口は多い方か、少ない方か？

・国勢調査による47都道府県の人口を活用

→岐阜県学習状況調査(中2数学)
に出題された(H27.1月)

岐阜県学習状況調査（中2数学） 国調人口が出題（H27.1月）

【図表2】

- 9 達也さんたちは、総合的な学習の時間に、平成22年に行われた国勢調査の都道府県別人口について、【図表1】～【図表3】の資料を使って、岐阜県の人口は多い方かどうか、次のように話合っています。

達也さん「【図表1】から都道府県別の人口の平均値は272万人ということが分かるよ。岐阜県の人口は208万人で、平均値と比べると64万人も少ないので47都道府県の中でも少ない方じゃないかな。」

浩二さん「【図表2】を見ると、達也さんが言うことは当てはまらないのではないかな。少ないよりは多い方じゃないかな。」

政子さん「【図表3】を見ると、100万以上200万人未満の都道府県が一番多いことがわかるよ。その階級よりも岐阜県は一つ上の階級にあるから、47都道府県の中でも真ん中よりも多い方っていいのではないかな。」

達也さん「なるほど、平均値で比較すると岐阜県は少ないと思ったけど、浩二さんや政子さんの話を聞いて、平均値だけで判断してはいけないことがわかったよ。」

浩二さん「数学の時間に代表値について習ったけど、都道府県別人口を考えるとときには、代表値として平均値を用いるべきかどうか判断する必要があるね。」

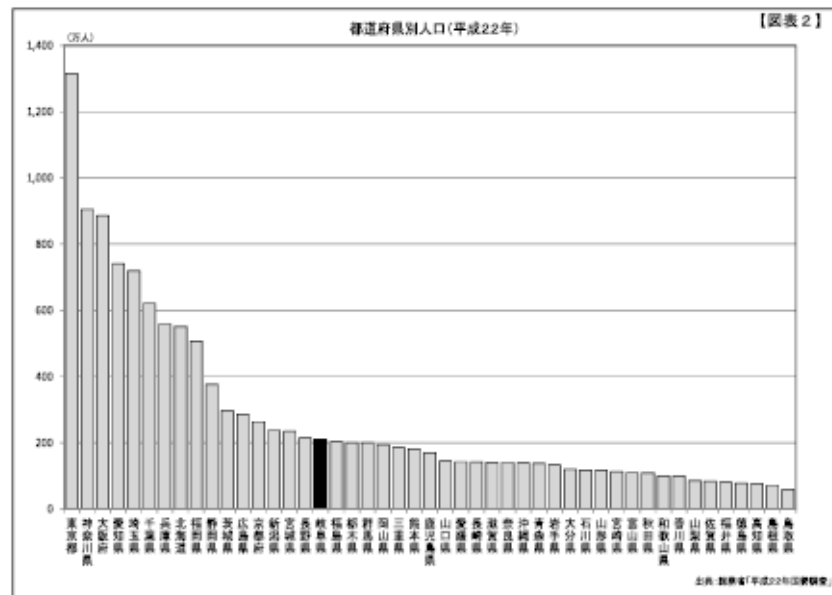
次の各問いに答えなさい。

- 平均値の272万人に一番近い人口の都道府県を答えなさい。また、平均値の272万人に一番近い人口の都道府県は人口の多い方から数えて何番目になるか答えなさい。
- 【図表3】から、最頻値を求めなさい。
- 会話の中で浩二さんが、「都道府県別人口を考えるとときには、代表値として平均値を用いるべきか判断する必要がある」と言っている理由を答えなさい。

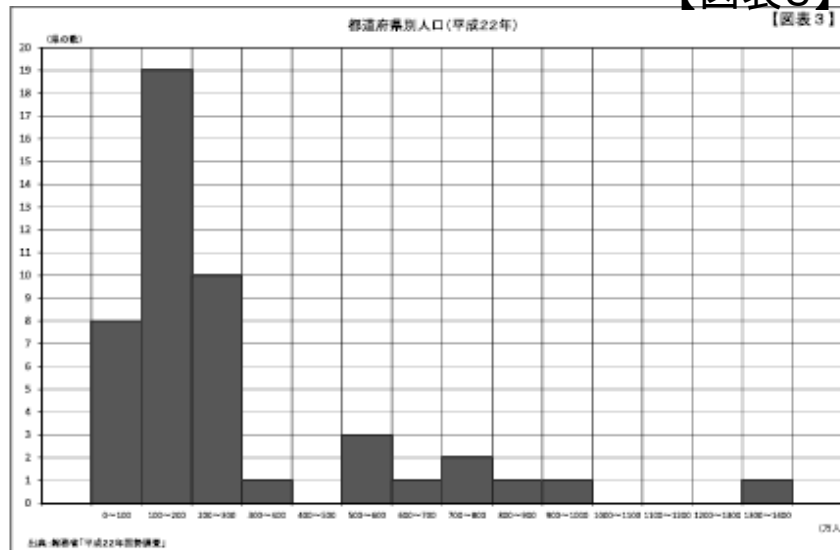
【図表1】

【図表1】
出典：総務省「平成22年国勢調査」

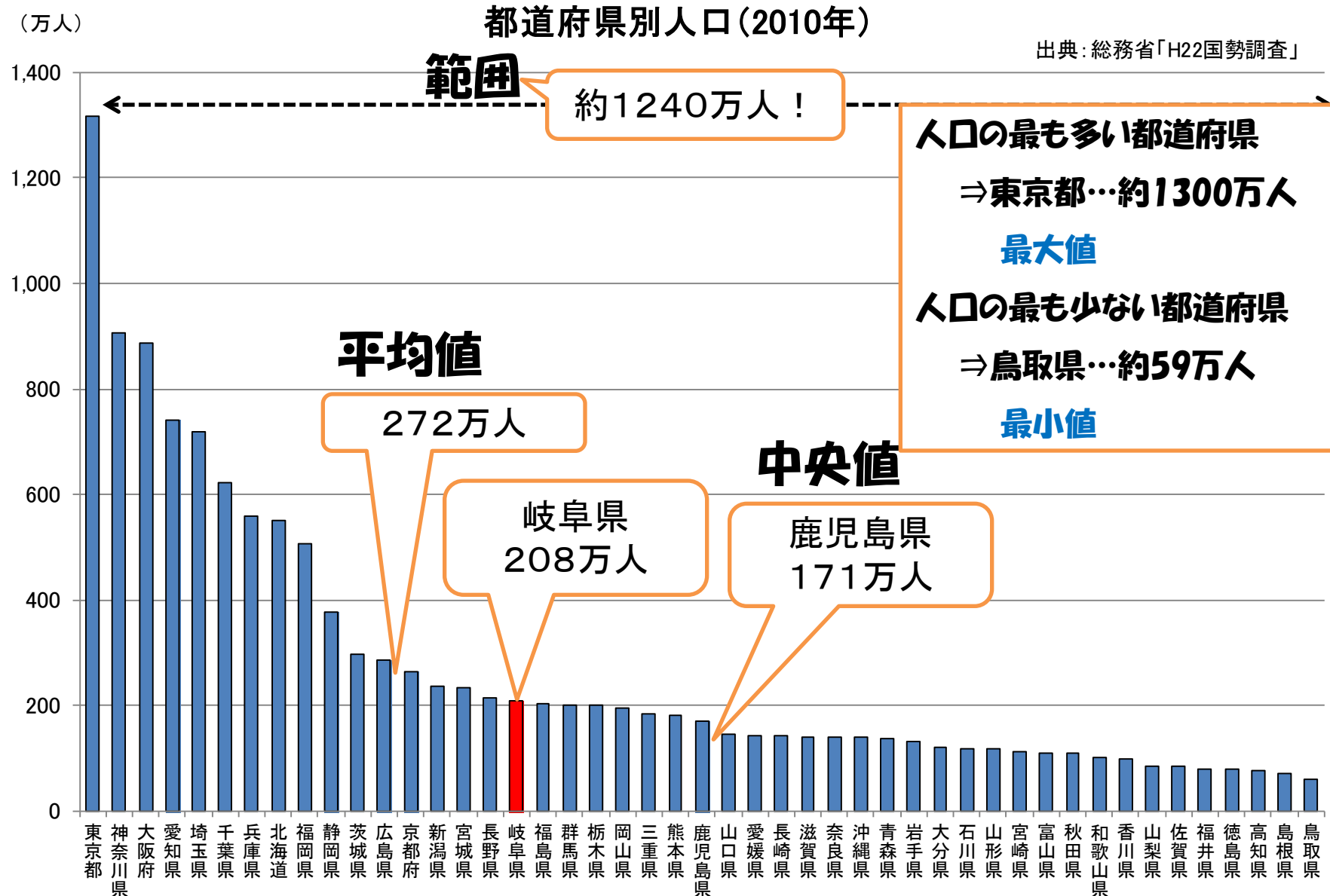
都道府県	人口(万人)
北海道	551
青森県	137
岩手県	133
宮城県	235
秋田県	109
山形県	117
福島県	203
茨城県	297
栃木県	201
群馬県	201
埼玉県	720
千葉県	622
東京都	1316
神奈川県	905
新潟県	237
富山県	109
石川県	117
福井県	81
山梨県	86
長野県	215
岐阜県	208
静岡県	377
愛知県	741
三重県	186
滋賀県	141
京都府	264
大阪府	887
兵庫県	559
奈良県	140
和歌山県	100
鳥取県	59
島根県	72
岡山県	195
広島県	286
山口県	145
徳島県	79
香川県	100
愛媛県	143
高知県	76
福岡県	507
佐賀県	85
長崎県	143
熊本県	182
大分県	120
宮崎県	114
鹿児島県	171
沖縄県	139
平均値	272



【図表3】



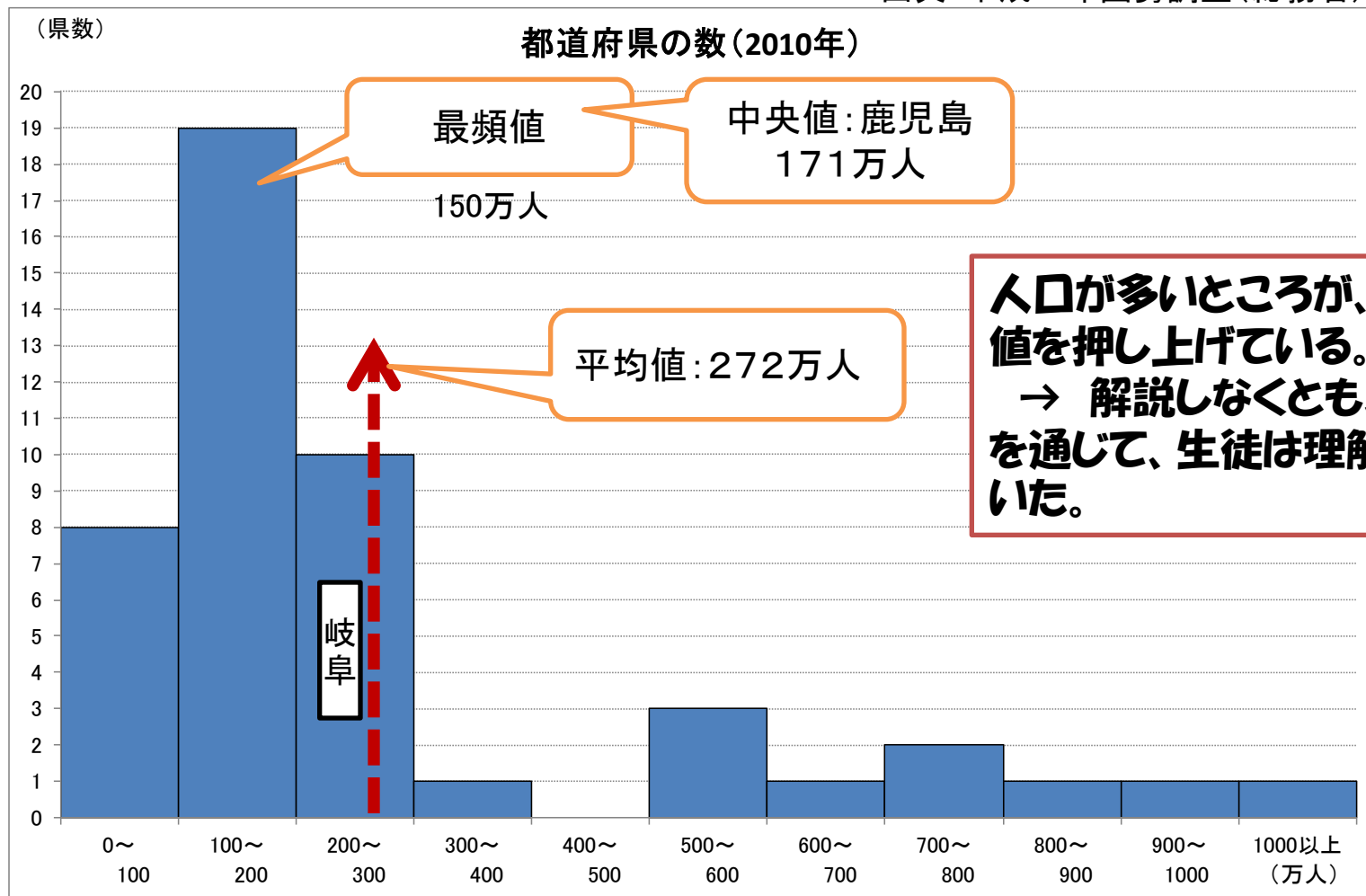
生徒の作業は戸惑うことなく進んだ。それぞれ発表してもらった後、 まとめのスライドで解説。



岐阜県の人口は、平均よりは少ない。しかし、ランキングをみると、岐阜県は多い方から17位。真ん中である中央値(24位)よりも上位。ヒストグラムをみると、最も度数が多い階級(最頻値)よりも、岐阜県は上位の階級にある。よって、岐阜県は人口が多い方の県と言える。→こうした内容を生徒がコメント

都道府県の数(階級の幅を100万人とする)

出典:平成22年国勢調査(総務省)



今や「人口」は政策テーマの中心となっている

○日本創成会議の政策提言から「消滅可能性都市」が話題となり、人口減少社会が大いに注目された。 一億総活躍社会なども

○人口減少社会を克服するため、地方創生に向けた施策に国・地方を挙げて取り組まれている。

→ この政策の計画「人口ビジョン」(人口統計が基礎となる)

○これら政策の基礎を支える人口データは、国勢調査はじめ最も整備された統計である。社会を構成するのは人であり、社会の現状や将来像を考えていく上でも、統計教育に、これら人口データを大いに取り入れるべきと考えている。

○なお、毎年大学で講座を実施しているが、人口減少を知らない大学生も多く、社会を知る上で必要な知識としても、人口データをさらに活用してほしいと思う。

公的統計を用いた教材の開発②

- ◆統計から生活リズムを見つめ直す
 - ・社会生活基本調査 H28実施

※恵那市立恵那西中学校で実践(H28.1月)

この授業の大まかな流れ

- ◆自分の時間、身近な仲間(学級・アンケートを実施)、
同年代の仲間(全国の中学生など・統計を活用) を比べて、
自分の生活を振り返る。

①起床・就寝・睡眠時間を調べ、統計と比較する

- 健康を守るために大切な時間です。「起床時刻」、「就寝時刻」、「睡眠時間」を確かめ
※睡眠は個人の適正時間もあるので、起床・就寝時刻も調べる

②自由時間(テレビ・休養・趣味)を調べ、統計と比較する

- 最も大事な時間。「自由時間」は、自分で過ごし方を決められる。
「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」「休養・くつろぎ」「遊び(趣味・娯楽)」の時間を確かめ
※学習時間では親しみにくいのでは。塾・習い事の時間などは扱い方が難しい

③統計を比較して、自分の生活リズムを振り返る

- ・度数分布表にまとめ、ヒストグラムに表す。
- ・平均値や最頻値など代表値を求める。
- ・自分の「睡眠時間」と「自由時間」のバランスがとれているか考える。
- ※学習したことを、実際の生活に活かすことが出来る

中1数学「資料の活用」が役立つ

◆30分単位では考えやすくした
◆フライバシーに配慮
統計の秘密を守る！
◆時間の関係で、目を閉じて挙手
すぐにエクセルで集計

◆ 自分の「ふだん」の睡眠について振り返ろう。

※「ふだん」・・・平日（月～金）の普通に学校のある日

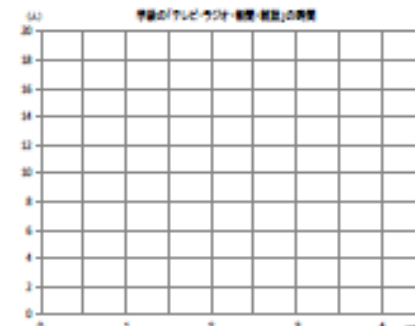
	自分	全国平均	なかにしくん
起床時刻	5時30分		5時30分
	6時		6時
	6時30分		6時30分
	7時		7時
	7時30分		7時30分
就寝時刻	21時30分		21時30分
	22時		22時
	22時30分		22時30分
	23時		23時
	23時30分		23時30分
睡眠時間	6時間	全国	6時間
	7時間		7時間
	8時間	岐阜県	8時間
	9時間		9時間
	10時間		10時間

1 学級の「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」の時間を調べよう。

全国平均 _____

岐阜県平均 _____

学級の「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」の時間		
時間	人数(人)	
以上 未満		
0時間 ～ 30分		
30分 ～ 1時間		
1時間 ～ 1時間30分		
1時間30分 ～ 2時間		
2時間 ～ 2時間30分		
2時間30分 ～ 3時間		
3時間 ～ 3時間30分		
3時間30分 ～ 4時間		
4時間 ～		
計		

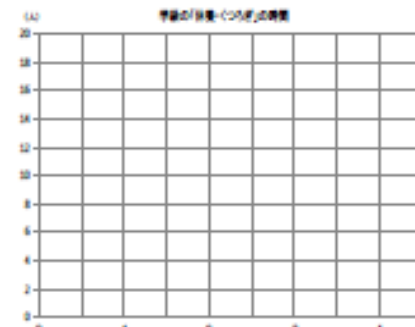


2 学級の「休養・くつろぎ」の時間を調べよう。

全国平均 _____

岐阜県平均 _____

学級の「休養・くつろぎ」の時間		
時間	人数(人)	
以上 未満		
0時間 ～ 30分		
30分 ～ 1時間		
1時間 ～ 1時間30分		
1時間30分 ～ 2時間		
2時間 ～ 2時間30分		
2時間30分 ～ 3時間		
3時間 ～ 3時間30分		
3時間30分 ～ 4時間		
4時間 ～		
計		

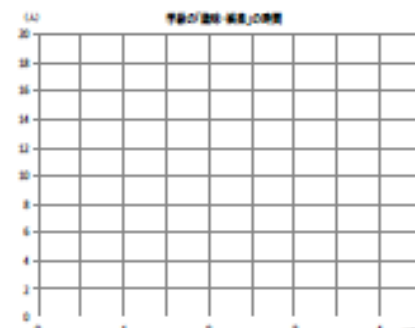


3 学級の「趣味・娯楽」の時間を調べよう。

全国平均 _____

岐阜県平均 _____

学級の「趣味・娯楽」の時間		
時間	人数(人)	
以上 未満		
0時間 ～ 30分		
30分 ～ 1時間		
1時間 ～ 1時間30分		
1時間30分 ～ 2時間		
2時間 ～ 2時間30分		
2時間30分 ～ 3時間		
3時間 ～ 3時間30分		
3時間30分 ～ 4時間		
4時間 ～		
計		



起床・就寝・睡眠時間

※H28.1.22に実施したある学級の平均

＜生徒達の時間＞

起床時刻 6時20分位

就寝時刻 23時位

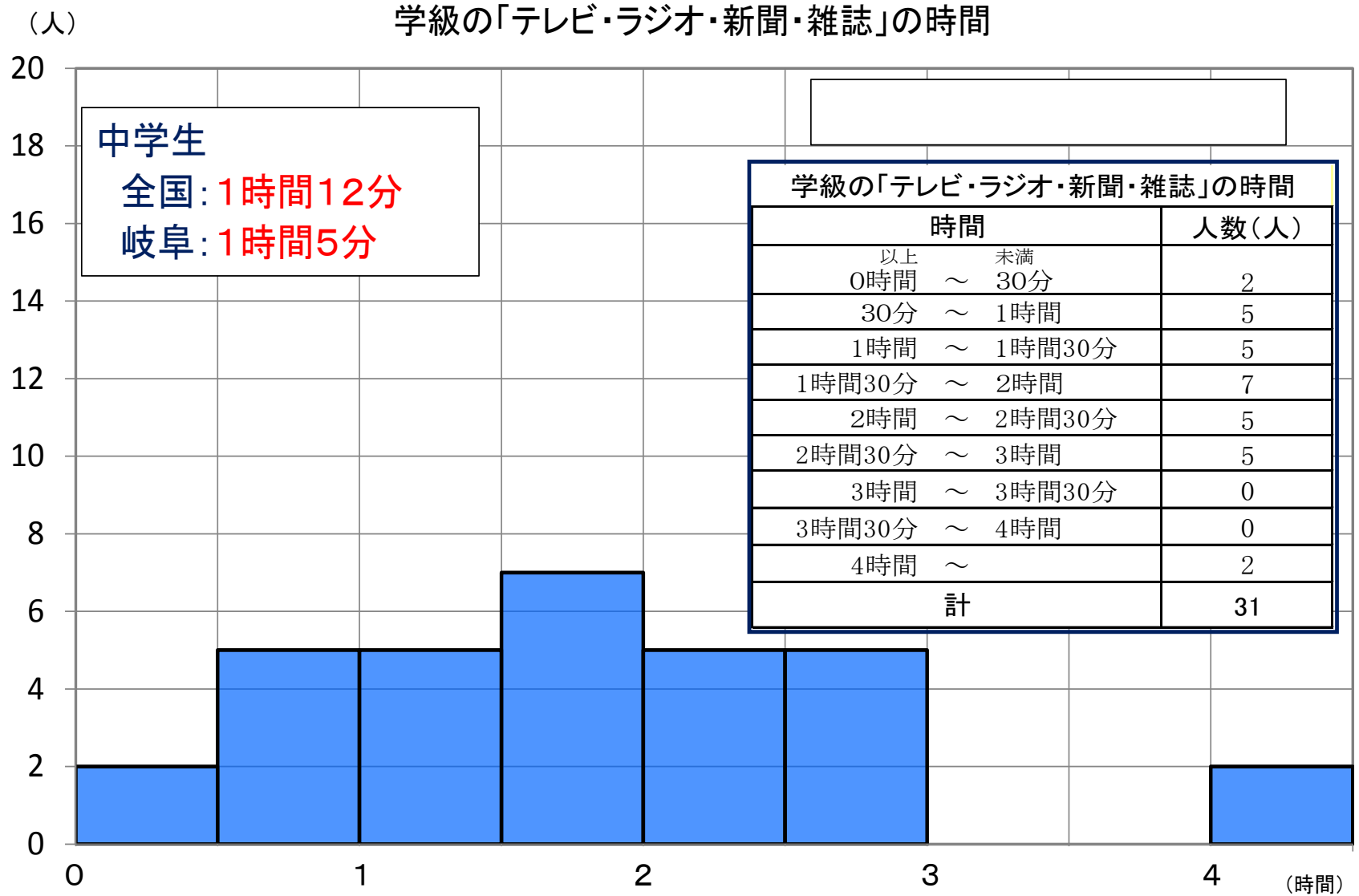
睡眠時間 7時間位

＜全国 10～14歳 平日(月曜日～金曜日)＞

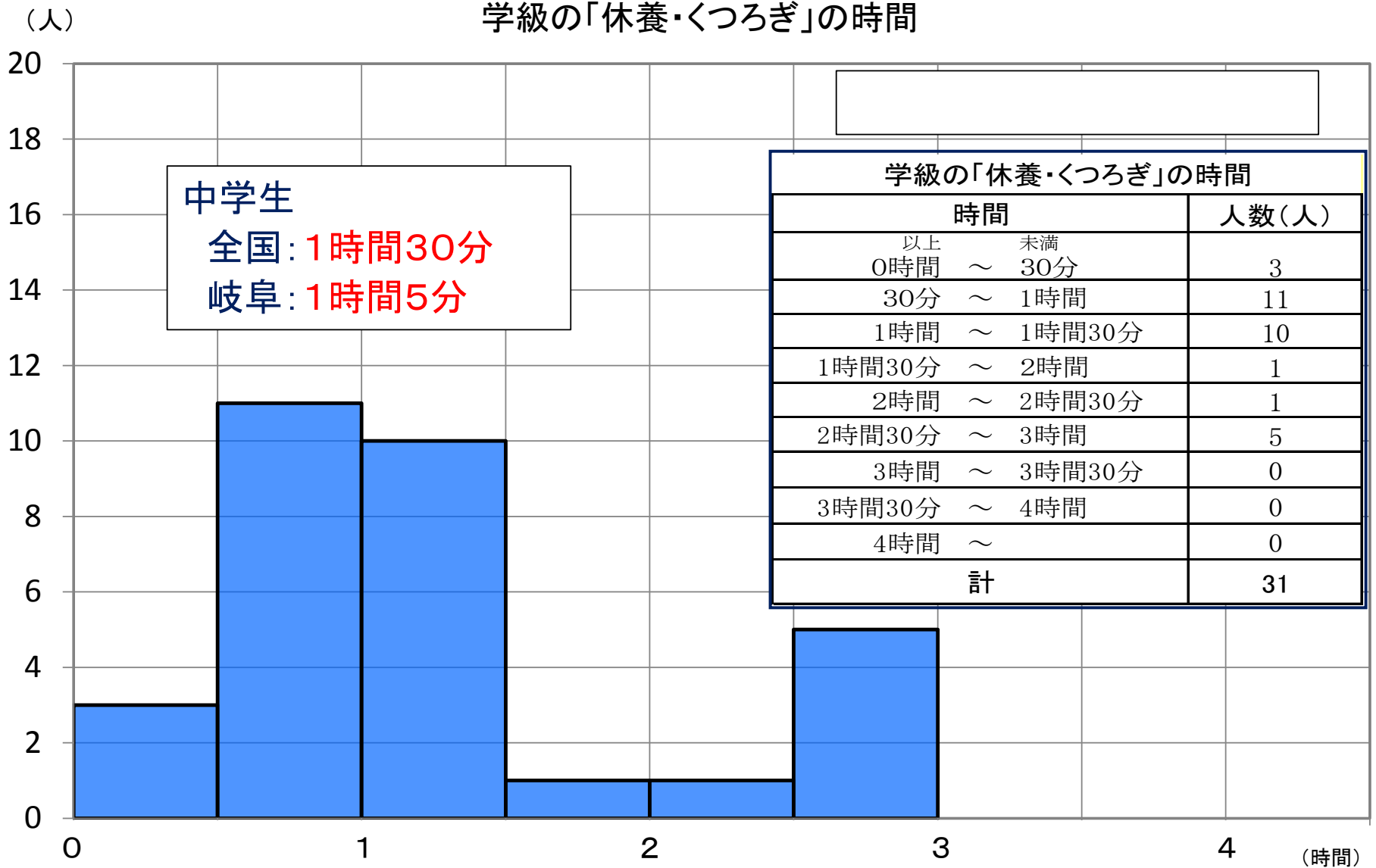
起床:6時38分 就寝:22時24分 睡眠: 8時間20分

※平成23年社会生活基本調査

※H28.1.22に実施したある学級の平均



※H28.1.22に実施したある学級の平均



※H28.1.22に実施した
ある学級の平均

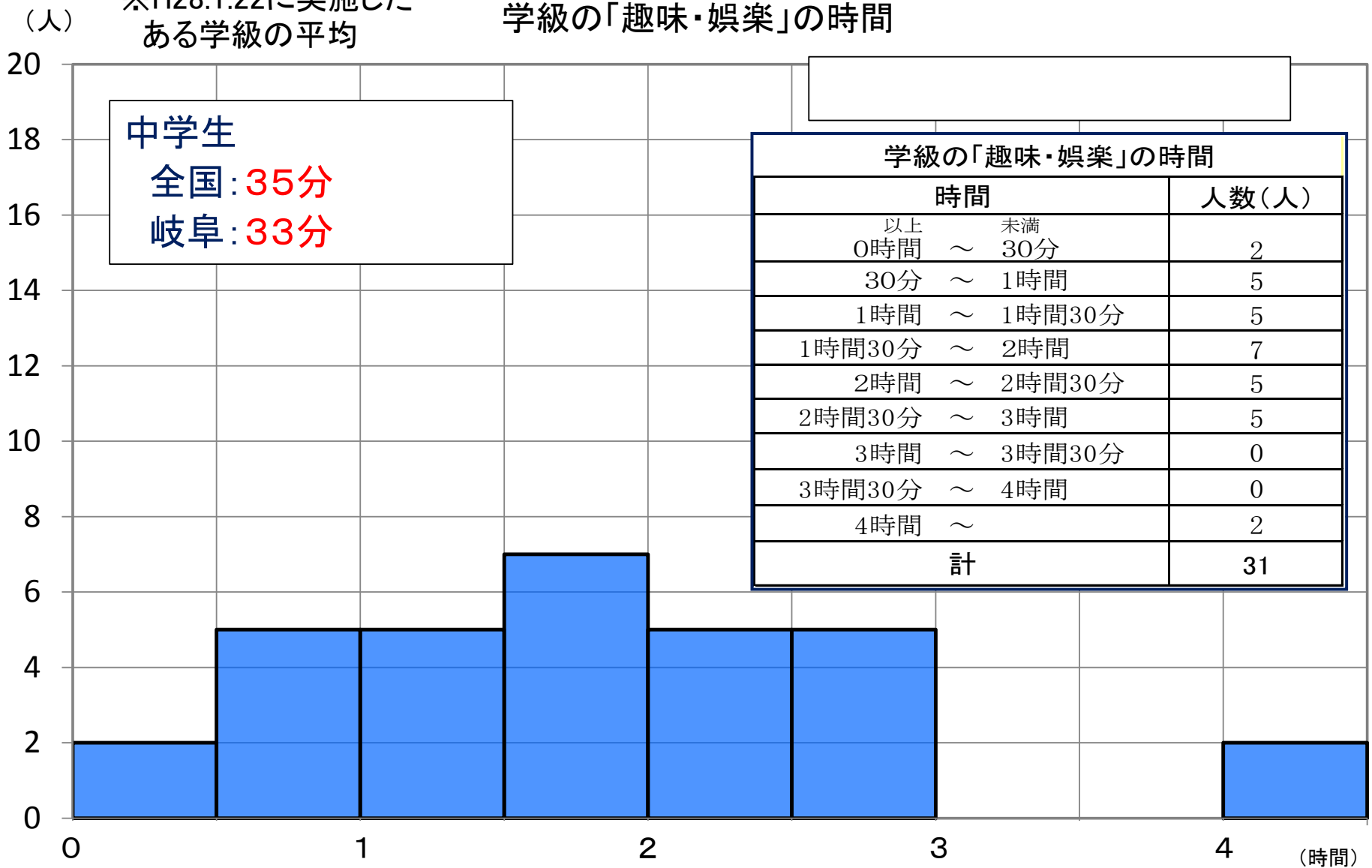
学級の「趣味・娯楽」の時間

中学生

全国:35分

岐阜:33分

学級の「趣味・娯楽」の時間		
時間		人数(人)
0時間	未満30分	2
30分	～1時間	5
1時間	～1時間30分	5
1時間30分	～2時間	7
2時間	～2時間30分	5
2時間30分	～3時間	5
3時間	～3時間30分	0
3時間30分	～4時間	0
4時間	～	2
計		31



<学級と全国の平均の差が大きい理由> 行動者平均と総平均について

全国では、「遊び(趣味・娯楽)」を「全くしていない」という回答が約73%あり。学級では、「全くしていない」という回答がなかったため。遊びの時間のとらえ方には違いがあるが、遊びの時間は、人によって大きな差があることがわかる。

○グラフをみた感想。

- ・自分はテレビの時間が長い ・他の人もテレビの時間は長いと思っていたのに短い
- ・全国は趣味の時間が短すぎる(もっと長いと思う) ・休養の時間はもっと必要 等々

○まとめの感想

- ・自分が全国と比べどの位か、学級の様子も分かり面白かったし楽しかった。
この様にデータをまとめて見ることもやってみたい。
- ・データをまとめたグラフを見れば学級の状態がぱっと分かった。グラフはとても便利。
- ・グラフや表を見て、自分と全国平均と違いがはっきり分かった。
データを基に自分の生活リズムを少し変えようと思った。とても面白かった。
- ・全国・県の平均と比べ自分は睡眠時間が短く、趣味・娯楽の時間が2時間位長く驚いた。
しっかり生活を見直していきたい。
- ・これからはできるだけゲームの時間を減らせるようにしたい。
- ・就寝時刻が全国平均と比べ遅かったので、早く寝るようにしたい。
- ・睡眠時間が短いので、早めに宿題とかを終わらせようと思った。
- ・今日の学習で全国と自分、学級の違いがよくわかったので良かった。
このやり方を覚えておいて今後活かせるようにしたい。
- ・改めてデータ化するのはすごいなと思ったし、そのことによって「自分たちの生活はこの時間が多いから見直さなきゃ」と考えた。社会にも絶対役に立つんだなと思った。

現場の先生の反応

- ・データを扱う学習で生徒があれだけ興味を持つとは思わなかった。
- ・中1「資料の活用」の効果をも高めるには、生徒に身近なデータを教材とする必要があると感じた。
- ・生徒が主体的に、楽しく生活リズムの見直しに取り組んでおり、大変有意義な授業だった。

◆「岐阜県中学校数学教育研究会コンピュータ委員会の皆様との意見交換会」

- ・健康管理などの観点から睡眠についてとりあげることは、非常に有意義。
- ・睡眠は個人にとって適正時間も違うので、一概に何時間必要とは言えない。睡眠時間を確保するには何時頃に就寝した方が良いのか、起床時刻から逆算して生活リズムを整えるというアプローチも良いと考える。テレビなどその他の時間の使い方も振り返るような流れが良いのではないか。

教材「統計から生活リズムを見つめ直す」のメリット

- ①「何の為に調べるのか」目的、方向性が明確である
 - ・時間の使い方は誰にも大事なことで生徒の関心も高い。
 - ・生活時間は特段の解説も不要で、理解しやすい
 - ・生活改善のためデータを集める、という必要性が理解しやすい
- ②教室で実際に調査を行い集計、分析まで出来る
 - ・定義が分かりやすく、簡易に実態調査が出来る
- ③統計と比較し課題と解決を考えることが出来る
 - ・生活時間は公的統計「社会生活基本調査」があるため、自分、学級(身近な集団)と統計(県・全国といった大きな集団)とを比べることが出来る。
 - ・平均やヒストグラムなどを用いてデータの比較分析を行い、課題を発見し、自分自身の解決策を考えるという、一連の過程をつなげやすいと考える

ま と め

◎データ活用講座の試みは、試行錯誤で、企画していくことは大変ですが、多くの子ども達と出会うことが出来て、とても楽しい仕事でした。

現場の先生方からは、児童生徒の関心を引きやすい 教材やデータの提供を望む声強い

◆現場の先生方からの声

- 教科書に沿った地域や身近なデータを用いた教材がある
と使いやすい
- 教材作成に探しやすいよう地域にまつわるデータをまとめて
提供してほしい
- 教科書以外のデータを授業に使いたくても、なかなか探せない。
なかなか時間がとれないのも事実。
 - 実際、求めるデータにたどり着くまでは苦勞することもある。
教員の方々から相談・依頼を受けデータ提供を行っている。

◆これまでも統計課ホームページで、出前授業で使った教材や
「県・市町村の現状」として地域データを提供しているが、
引き続きアップデート等に取り組んでいく。

公的統計を教材に活用いただきたい

→ データ提供が大事

- 教材として活用できる統計を選ぶのは意外に難しい。
 - ・出来る限り、児童・生徒にとって身近である
 - ・定義が理解しやすい(人口、生活時間は詳しい説明は不要)
- 統計を活用して、テストの問題などに仕立て上げる等は、プロの教員の方々の力。
県統計課の役割は、素材となるデータの提供。
総務省・各県とも連携し、データ提供に努めていきたい。
- 教材として公的統計が活用されていくことが、統計そのもののPRとなり、統計への関心、理解を深めることは間違いなく、今後もより多く採用いただけるとありがたいと考えている。

注意
喚起

かたり調査が多発しています。県や市町村の職員、統計調査員が電話で世帯に対し統計調査の依頼をすることはありません。ご注意ください。

岐阜県の人ロ

【平成27年1月1日現在】
推計人口：2,039,886人
(前月より761人減少)

世帯数：749,611世帯
(前月より23世帯増加)

岐阜県の将来人口推計

[2015年農林業センサスを実施します。](#)

調査票への御回答をお願いします。



- ・ [平成24年度 県民経済計算結果\(確報\)【統計課】](#)(02月19日)
- ・ [「G-Censusプレゼンテーション資料作成コンテスト」で県統計課職員が「最優秀賞」を受賞しました【統計課】](#)(02月19日)
- ・ [生産動態統計調査結果\(平成26年12月分\)【統計課】](#)(02月17日)



県・市町村の現状

統計ライブラリ

統計関連サイト

統計書・要覧

グラフコンクール

データ活用講座

人口

[岐阜県の人口・世帯数](#)
[国勢調査](#)

経済

[県民経済計算](#)
[市町村経済計算](#)
[産業連関表](#)
[気象動向指数](#)
[経済指標](#)
[グラフで見る最新の県経済](#)

農林業・住宅

[農林業センサス](#)
[住宅・土地統計調査](#)

労働

[毎月勤労統計調査](#)
[就業構造基本調査](#)
[労働力調査](#)

物価・家計

[岐阜市消費者物価指数](#)
[全国消費実態調査](#)
[家計調査](#)
[岐阜県消費者物価指数](#)
[小売物価統計調査](#)

教育・社会生活

[学校基本調査](#)
[学校保健統計調査](#)

商工業・事業所

[岐阜県並工業指数](#)
[生産動態統計調査](#)
[工業統計調査](#)
[岐阜県輸出関係調査](#)

[岐阜県大型小売店販売額](#)
[商業統計調査](#)

[経済センサス](#)
[事業所・企業統計調査](#)

その他県の統計

[G-Census 最優秀賞受賞](#)

新着一覧

「データ活用講座」について

岐阜県統計課では統計に慣れ親しんでもらうため、統計の普及啓発を進めています。

その重点的な取り組みとして、次代を担う若い世代の方々等にデータの分析、活用の実践について学んでいただくことをねらいとして特別授業等の開催を平成23年度からスタートしました。

県内の小学校、中学校、高等学校や大学、県内各種団体などを対象に、データの分析・活用のノウハウや、データから見た岐阜県の現状や特徴などについて、統計課職員が出向いて、わかりやすいグラフや図等を用いて解説を行います。

申込方法について

県内の小中学校、高等学校、大学など、出前授業を希望される場合は、岐阜県環境生活部統計課企画分析係まで、お気軽に御連絡ください。（なお、学校に限定するものではありません。申し込み多数の場合は、御希望に添えない場合もありますので御承知おき願います。）

<[学校の先生方へ](#)>（特別授業などのイメージ、各教科で考えられる活用例を紹介しています）

岐阜県環境生活部統計課 企画分析係
TEL 058-272-1111(内線2083) FAX 058-271-5720
c11111@pref.gifu.lg.jp

[「データ活用講座」の様子](#)

データ活用講座で使用した資料

これまでのデータ活用講座で使用した資料の主なものを紹介します。

算数・数学で新たに学習指導要領に盛り込まれた統計の分野（「資料の活用」領域）における授業の実践例、データから見たふるさと（地域）の特徴などについて学ぶ授業の実践例（社会や総合的な学習の時間など）等として参考にいただければ幸いです。

なお、これらの資料は、データ活用講座を実施した時点で公表されたデータを用いて作成しておりますので、御注意ください。

お気づきの点や御意見などございましたら、岐阜県環境生活部統計課企画分析係まで御連絡いただきますよう、お願いします。（パワーポイントのデータ等が必要な場合も御連絡ください。）

実践例1

データからふるさとを知る

データからみた岐阜県の特徴や強みなどについて解説を行うものです。

< [教材資料1](#) >（内容についてはこちらをクリックしてください）

実践例2

代表値（平均値、中央値など）、ヒストグラムを用いてデータを分析する

「岐阜県の人口は多い方が、少ない方が」をテーマに、47都道府県の人口について分析を行うものです。

< [教材資料2](#) >（内容についてはこちらをクリックしてください）

実践例3

データをグラフに表し傾向を読み取る（中1数学「資料の整理と活用」）

人口や産業など地域に身近なデータを題材にグラフ作成する体験学習等を行うものです。

< [教材資料3](#) >（内容についてはこちらをクリックしてください）

実践例4

数値のちからばりから集団の傾向をつかむ（中1数学「資料の整理と活用」）

身近なデータを題材に分布の様子やヒストグラムの作成（代表値、偏差値）について解説を行うものです。

< [教材資料4](#) >（内容についてはこちらをクリックしてください）

我々が学んだこと

- ◇ **たくさんの生徒の皆さんがくれた笑顔**
「楽しい授業だった」
「グラフを効果的に使ってみたい！」
- ◇ **統計は利用されてこそ価値がある**
- ◇ **「わかりやすく伝える」ことの難しさを
改めて実感したこと(日々の研鑽が大事)**



八百津町立八百津小学校

岐阜市立陽南中学校



本日は、貴重な機会を頂戴し、誠にありがとうございました